

おほきすめらみこと  
太上皇、難波の宮に御在しし時の歌七首  
さだいじんたちはなのすくね  
左大臣橋宿禰の歌一首

四〇五六番

ほりえ  
堀江には たまし  
玉敷かましを おほきみ  
大君を みふねこ  
み舟漕がむと  
かねて知りせば

おほみうた  
御製歌一首 和へ

四〇五七番

たまし  
玉敷かず きみ  
君が悔いて言ふ ほりえ  
堀江には たまし  
玉敷き満  
てて 継ぎて通はむ かよ